

越嶺会報

平成30年(2018年)12月1日

第85号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

越嶺会ホームページ

越嶺会

検索



「富山大学同窓会連合会10周年記念」として樹陰に設けられた木製ベンチ

黒田講堂の前、正門寄りに、1辺約5mの四角形で樹木を囲んでいる。

角に「寄贈 富山大学同窓会連合会 2018年7月」と記したプレートが貼ってある。

目次

越嶺随想 2

ノデ藁と荷縄は語る

ー親といっしょに働いた幸せー

高原 徹

母校だより 4

教員の異動、次期富山大学長に齊藤滋氏

学会・シンポジウム開催

吉原先生が経済学部で講義

ESTUDIO第41号発行

経済学部資料室だより

大熊信行文庫新着資料

学部教員著書紹介

寄贈図書紹介・御礼

本部だより 8

総会報告、祝叙勲、寄付金御礼、決算・予算書、

越嶺会グリーン会ゴルフコンペ

各支部・各回だより 9

関東越嶺会、関西支部、東海支部、石川支部、
東北支部、福井支部

同期会だより 18

三嶺会通信、短信：7回生(関西)

越嶺14会名古屋の集い、越嶺14年全国大会

18期越嶺Gのふる里一泊紀行、4950の会、

45年入学ミニ同期会、

経営短大8・9・10回生の集い

全国大学OB親善ゴルフ大会

同窓会連合会の行事報告 23

ゴルフ大会(優勝：越嶺会チーム)

総会・決算報告、ホームカミングデー

会員の訃報 25

富山大学基金だより 27

住所変更をお知らせください 28

越嶺随想

ノデ藁わらと荷縄は語る

親といっしょに働いた幸せ

高原 徹

ちょうど七〇歳になりました。元気に仕事を続けています。タイトルに「ノデ藁」「荷縄」とありますが、どちらも藁で作られた米作り用具です。昭和二〇〜三〇年代によく使われました。これをよく使った団塊の世代の一人として、子どもの頃の思い出を書いてみようと思います。

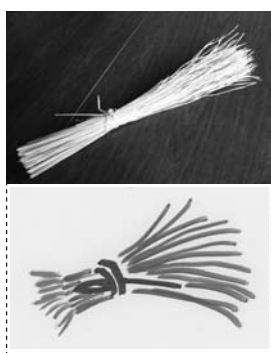
民具

わたしの生まれ育った富山県の砺波地方は、昔から米作りの盛んなところ。そんな農村に生まれ育った私が現在地元の博物館「砺波郷土資料館」のお世話をしています。この博物館の特色は、これまで米作りに使っていた道具や農家の日常生活に使っていた用具を数多く収集して市民にお見せしていることです。この用具を「民具」といいますが、それが平成二十九年三月に国の「重要有形民俗文化財」に指定されたのです。しかもその数が半端ではありません。

六九〇〇点です。市民の協力で収集した民具としては、指定していた点数は日本で最多です。ありがたいことです。ここにあげたノデ藁と荷縄はこの民具の中の一つなのです。

ノデ藁

田んぼの中で育った方ならよくご存じでしょうが、「ノデ藁」とは、苗代で取った早苗を縛る藁のことです。苗を田んぼまで運んで、いよいよ田植えが始まります。腰



ノデ藁と縛った苗束

かごに手を入れ、苗束を一つ握り、縛っていたノデ藁をほどきます。その藁一筋を田んぼに投げ入れ、

田んぼに踏み込んだ右足で土の中へ押し込みます。藁を土に返すのです。この朝の一動作が、「今日もしつかり働くぞ」という意欲をかき立ててくれる瞬間です。



苗代で苗取りをしている様子（再現）

それから一人三列を受け持つ前進で植えていきます。隣には母が植えています。右には近所のお母さんたちが植えています。一生懸命植えるのですが、どうしても大人より遅くなります。くやしいけれど、これは仕方がないことです。ところが、畦に近づくと、一列が植えてあり、二列を植えれば、いいようになっています。大人の一人に近づけるので、嬉しくなります。母が一列植えていてくれたのです。そのうちに今度は右の一列も植えてあり、自分は一列だけ

どんどん植えて、畦に着くころにはほぼ大人のひとと並んでいます。近所の人も一列植えていてくださったのです。今これを思うと、母は苗を植えながら、いつもわが子の様子をよく見ていたのです。近所の人も「カタイ子やね。そして植えとりやがて一人前になるよ」という心で応援してくださいました。

荷縄

写真のように、背中に物を担ぐ折に使う縄で、藁でできています。昔は、荷車の通れる道まで、田んぼから稲を運び出さなくてはなりません。人の背に担いで運ぶのです。それが大変でした。もちろん小学三年生ぐらいの私もあてにされました。母は子ども用の荷縄



藁で丈夫にこしらえた稲かづき用荷縄

をこしらえておき、まず私に担がせました。そして自分も担ぎます。母は背中いっぱい担ぐので、



背中いっぱい背負う稲かづき (再現)

「背中を押してくれ」といいます。そのほうが立ち上がりやすいのです。あぜをいくつも越えて田んぼを歩き、川にかかる細い橋板も渡って往来(道)まで運びました。何往復したでしょうか、運び終わったころには夕日が沈んでいました。運びながら母とたくさんおしゃべりをしました。穂を絶対に踏まないことや稲の縛り方、田んぼの歩き方、長い時間働くことなどたくさん教えてもらいました。母は働きながら子育てもしていたのでしよう。この教えがあったからこそ、今日まで無事生きてこれたと感謝しています。

民具で出前講座

最近、民具を持ってお年寄りの集まっている集落サロンへでかけることが多くなりました。私たちの親世代の人はもう出席されません。すると、私たちの兄弟の年代の方々と話をする事になりました。主に昭和二〇〜三〇年代の暮らしのりの話なので、団塊の私とても話が合うのです。講演のつもりで呼ばれるのですが、意気投合してしまい、座談会になってしまふのです。例えば、お釜をお見せすると、それだけで、「そうだそうだ。これで炊いたご飯はおいしかった。必ず少し焦げるんだ。それがまたうまかった。」「母ちゃんに言われて縄のタワシでよくナベス(鍋墨)をこすったもんや。」「と、子ども時代の食べ物の話が続きます。人の話を折ってでもしゃべろうとなさいます。



お釜とおはち

こうなると、私の思惑通りで、お年寄りの脳の活性化「地域回想法」の域に入りこんでまいります。

若い人に伝える手立て

この民具のよさを伝えようと、先日高校の演劇部の生徒と民具の演劇化を図りました。私も参加させていたいてコント風に脚色しました。鉄瓶を持つてくるはずのところ、ケトルを持つてきたり、「ネカベッツィ(もみ殻のかまど)」の方言が分からなくてうろたうと探しまわったりと、楽しく上演してもらいました。若者に日本の古きよき文化を伝える一つの方法として手ごたえを感じました。

団塊の世代は貴重な存在

私たち団塊の世代は、このような戦後の手作業の時代を経験して暮らしてきました。また戦前、戦中のことも親からたくさん話を聞いてきました。何よりも、明治や大正生まれの両親の生きざまをよく見てきています。そこから働くことの大切さ、我慢して続ける力、身の周りのものを活用して工夫する力、米一粒でもだいたいにする心など多くのものをごく自然に学び、身に付けています。

最大の幸せは、親と一緒に汗して働いた、ということ。民具を持つてどのサロンへしゃべりに行っても、涙流して語られるのは、親、特に母親との思い出です。どの人も貧しくてぜいたくできない家庭だったけれど、親の愛情に包



昔の食事風景を高校演劇部生と再現

まれて、心はとても豊かだったようです。今の子どもには味わえないかけがえのない心の財産です。

そして団塊世代の私たちが働き始めたころ、コンピュータの時代に入っていくところでした。コボル、フォートランという基礎的なプログラムを学び、手で行っていた作業を、コンピュータ化していく過程を体験しました。現在のインターネット、携帯電話もなんとか使いこなせます。七〇歳といえども、何でも経験して、何でも知っていると貴重な世代なのです。胸を張って若者に語ってほしいと思っています。でも、威張らずに孫と一緒に体を動かしながら、昔もよかったよと伝えようではありませんか。たかはら・とおる 学部十八回

母校だより

教員の異動

昇任

極東地域研究センター
平成三〇年四月一日付

山本雅實・教授(環境経済)

昇任・併任

都市デザイン学部へ移籍

極東地域研究センター併任

杉浦幸之助・教授(地球科学)

次期学長に齋藤滋氏



遠藤俊郎学長の来々三月末での任期満了に伴い次期学長選考が進められていたが、五名が立候補し、公開討論会、教職員による意向調査、面接と手続きを経て平成三〇年十一月五日(月)学長選考会議で決定された。

齋藤 滋(さいとう・しげる)氏

一九五五年大阪府出身、奈良県

立医科大学卒、同大学院修了、一

九九八年富山医科薬科大学医学部

産科婦人科学教授、二〇一六年附

属病院院長・副学長

学会・シンポジウム開催

グローバル経済国際セミナー
日時：七月八・九日(日・月)
会場：経済学部7階大会議室



一、コスタス・ラバヴィツアス
(ロンドン大学教授)
米国の金融経済化の転換点



二、服部茂幸(同志社大学)
日本の金融経済化



三、樊 毅(フアン・イ)中南林業
科技大学経済学院(中国・長
沙)養老保険加入における、
時間選好、所得、意欲

四、黒坂 真(大阪経済大学)

北朝鮮の宮廷経済の考察

五、齊藤美彦(大阪経済大学)

『金融化資本主義』に対する日
本のマルクス経済学者の貢献

六、新里泰孝(富山大学)

貨幣、債券、株式、外国為替
の投機モデル

七、宮下春樹(筑波大学)

所有についての進化論的動学
によるマッチング構造

八、二神孝一(大阪大学)

割引と消費の外部性を考慮し
た資本蓄積ゲーム

九、本山卓実(富山大学)

重複世代モデルにおける物的
および人的資本蓄積のもとで
の公債の持続性

また、九日一六時三〇分からコ
クタス教授による学生ゼミナール
を実施した。



ESTUDIO 復刊第一〇号

(通巻第四一〇号) 発行

発行：富山大学経済学部
ゼミナール協議会

後援：越嶺会

A4判、一一〇頁

発行日：二〇一八年三月

巻頭言 評議員・福井 修
審査経過と講評 大坂 洋

入選五点

公立文化ホールのあり方―地方の
財政問題を克服して効率の良い施
設の運営をするために―

石田雅典・高井沙希・宮崎睦巳
(中村(和)ゼミ)

公共図書館の現状と今後のあり方

板谷春菜・小笠原淳史・

加藤駿・神保羽美・古田涼平

(中村(和)ゼミ)

日本のアパレル産業の歴史と構造
転換

竹本健汰・田尻葵・中田理紗・

中尾実花(金ゼミ)

富山市のコンパクトシティ政策の
特色と課題

木村紘國・笹倉真菜美・関桃香

・種田紗瑛・丹澤拓磨・

山田美由紀(矢島ゼミ)

吉原先生が経済学部で講義

六月二十九日(金)第三限(午後一時から二時三〇分)富山銀行による寄付講座「銀行論」の時間に、富山銀行顧問の立場で「民法」について講義された。



始めに本間哲史教授によって、元経済学部長、元高岡法科大学長との紹介があった。

教壇に立たれた先生は、朗々としたお声で六法やご自身の著書「民法をつかむ」を手に話された。

まず、富山県には民法を学ぶ上で重要な事件が起きているとして、宇奈月温泉事件を紹介し、第二審の富山地方裁判所で初めて「権利の濫用は之を許さない」の判決が出て大審院でもこの判旨を支持し民法第一条第三項に「権利の濫用禁止」が条文化されることとなつ

たと解説された。



さらに、著しく信義誠実の原則に反した「背信的悪意者」には登記なくして対抗できること、民法第一条第二項の「信義誠実の原則」を解説された。



また、質問を受けて司法試験をはじめ法律の勉強では民法が一番重要と述べられた。

終始、明るく大きな声で講義され、最前列の富山銀行員をはじめ二一〇教室の百名ほどの学生相手に丁寧に話される、以前と変わらぬ姿勢に感銘を受けた。



本間哲史教授



南砺市の観光資源の現状と課題
黒田いずみ・山岸夏緒・
得永純希(龍ゼミ)

佳作二点

アベノミクスによる日本貿易への影響―自動車産業と石油産業に及ぼす影響―

アミルル・シャフィク・ビン・アフマッド・ザイニ

(新里ゼミ)

派遣労働者の賃金格差是正に向けて

林由記(新里ゼミ)

卒業論文を

お返しします。

返却ご希望の方は、卒業年とお名前を越嶺会事務局までお知らせください。

(メール、FAX、電話、葉書・手紙等)

なお、郵送料はご負担願います。

受け取られた後、受領書とともに切手にてお送りください。

シンポジウム

「北東アジアの環境問題
ESG・SDGsの時代に問う」

日時：十一月九日

会場：ファーストバンク
キラリホール主催：富山大学研究推進機構
極東地域研究センター

シンポジウムでは、神戸大学経済学研究科教授・石川雅紀氏、清華大学環境政策研究所所長・常杓氏、富山大学研究推進機構極東地域研究センター協力研究員・染野憲治氏、慶應義塾大学経済学部教授・細田衛士氏に登壇いただき、中国や日本における環境問題の現状について講演をお願いした。環境問題や廃棄物政策に強い関心を持つ富山県庁職員や県内の企業関係者四〇名以上が参加し、講演の合間や終了後には質疑応答を通して活発な議論が行われた。

第十六回北東アジア

学術ネットワーク

国際カンファレンス開催

十日には、経済学部と研究推進機構極東地域研究センター共催の
The International Symposium on
International Specialization and
Sustainable Utilization of Resource-



es in Northeast Asia and the 16th Annual Meeting of the Northeast Asia Academic Network (NAAN)」と題した研究集会が行われた。

この研究集会は二つの趣旨により構成されている、まず一つは経済学部と研究推進機構極東地域研究センターが韓国の江原大学校（経営大学）、および中国の中南林業科技大学（経済学院、商学院）と毎年持ち回りの形で開催されている「北東アジア国際学術ネットワーク（the Northeast Asia Academic Network, NAAN）」の一環として行われてきたもので、二〇〇一年に極東地域研究センターが発足して以来、今年は第十六回となり、今年は富山大学にて開催されたものである。

もう一つは、極東地域研究センターが人間文化研究機構(National Institutes for the Humanities, NIHU)および国内の五つの大学・研究機関と共同で推進しているネットワーク型基幹研究プロジェクト「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」の研究プロジェクトに関する研究集会として行われたのである。以上二つの趣旨をふまえ、今回は、共催者である大学や研究機関だけではなく、中国人民大学、北京師範大学や台湾国立大学などの

研究者も招き、国内外約四〇名の研究者が参加し、北東アジアにおける経済成長、国際関係、環境問題、公共政策、ビジネス、歴史や文化等といった分野における七つのセッションにより進められた。各セッションでは三つの研究報告が行われ、それぞれの報告に対して、討論者やフロアから多彩な質問が寄せられ、活発な議論が行われていた。また、研究報告だけでなく昼食時や懇親会を通して親睦を深めたことにより、さらなる研究の発展や協力関係の創出に貢献することができた。

経済学部教授 馬駿 記



経済学部資料室だより

「大熊信行文庫」 新着資料



『歌集やまなみ』(やまなみ同人)
昭和五一年十月十五日発行
B6判二八〇頁

梅沢秀司さん(高岡高商一回・
まるめら同人)が高校の教え子、
加藤三朗さん(神奈川大大熊ゼミ
生・詩人)に贈った同人歌集。

「序にかえて―「まるめら」の
立場と「やまなみ」歌集」と題
して大熊信行先生が寄稿し、梅沢
さんの「大熊先生と歌誌「まるめ
ら」」なども掲載。加藤さん宛の
献辞もあり、師弟三代の交流が偲
ばれます。

『短歌現代』(短歌新聞社)

第二巻第六号(昭五三年六月発
行)は大熊先生没後一年に発行さ
れた追悼特集号。土岐善麿「和歌
の運命―「まるめら」の青春―」
ほか、梅沢さんも「大熊信行先
生」を寄稿されています。

また、生前最後の写真と思われ
る昭和五二年六月八日の土岐善麿
九二歳誕辰祝賀会(東京ホテルニ
ューオータニ)での写真が、第一
巻第二号(昭五二年八月発行)冷
水茂太「大熊信行氏を悼む」に掲
載されています。

第一巻三号(昭五二年九月)に、
土岐善麿が「とぼとぼと周辺の会
より帰りを 最後の東京と誰か
想いし(大熊信行哀悼)」を寄せて
います。
「越嶺会報第八一号」には、五
月三日米沢・上杉神社祭礼時の写
真を載せています。



高岡高商第1回卒業アルバム
「文芸部」。右端が梅沢さん。

教員の著書紹介



経済学部資料室では、元教員の
著書等も展示しています。懐かし
い恩師の本を見ていただければと
存じます。
資料室は見学歓迎です。



『ローザ・ルクセンブルグ
経済学入門』

：ローザ・ルクセンブルグ選集』
訳 保住敏彦・久間清俊・
桂木健次・梅沢直樹・
柴田周二・二階堂達郎

『ローザ・ルクセンブルグ選集』

編集委員会・編
A五判三七三頁 二〇一八年八月
御茶の水書房発行 九,五〇四円
桂木先生らが長く係って完成させ
た力作。

寄贈図書紹介・御礼



和田美寿子様より

『作文が生まれるとき』

著者：小澤昭巳・佐野善雄・
堀江節子・和田美寿子

発行者：和田美寿子

発行年：二〇一〇年六月三〇日

発行所：桂書房

A5判二七九頁一二九六円

和田侃さんは高岡高商一五回生。
復員後、作文教育を志し一九四九
年に高岡市に出版社「攻文社」を
起こし「小学作文」「中学作文」
を一九五三年まで発行し、高校教
諭などを務め二〇〇三年死去。作
文教育に取り組んだ佐野さん、童
話作家の小澤さん(高岡工専三
回)らの協力で活動をふり返るこ
の本を奥さんが発行された。

なお、「小学作文」「中学作文」復
刻版は富山大学附属図書館に寄贈
され、中央図書館3階の県内機
関・団体刊行物書架で閲覧可能。
また、高岡市立図書館等にも寄
贈されていて読むことができる。

本部だより

越嶺会総会

二〇一八年五月二十九日(火)

午後六時〜九時

オークスカナルパークホテル

はじめに、今年二月に逝去された大山勝好さんをはじめ亡くなられた恩師、学友のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

橋本会長は開会挨拶で、昨年の総会で会長に選出され一年が経ったと、その間の出来事感慨を込めてふり返って感想、思いを語った。シンガポールへの出張の際の感想、中国系が多いのに公用語が英語など印象的な話を語られた。

来賓挨拶で、福井経済学部長は、日ごろの支援に感謝すると述べ学部の状況を説明された。

学生定員削減は大学改革で規模の再検討を行い、学部全体の機能強化を企画する。

学生定員は昼間主四〇名、夜間主三〇名を削減し、入学定員は昼間主三〇五名、夜間主三〇名になった。機能強化は、ゼミナールの拡充を図り、一年後期から二年前期までのゼミナール不開講時期をなくし、入門ゼミナールを一年後

期に、基礎ゼミナールを二年前期、専門ゼミナールを二年後期からとすることにより少人数による密度の高い教育と緊密なコミュニケーションをはかるもの。

さらに、アドバンスト・プログラムは国際ビジネス、金融・財務、行政マネジメントの三プログラムを設け、明確な進路を描いている学生により高いレベルの演習講義を行い進路選択をサポートする。また、大学院は留学生依存や定員未充足の課題があり、旧高商系の特色を活かしたものを検討中である。

いづれにしても地元企業、地方公共団体との協力・連携が必要であり、学生が学びたいと思うことがポイントであり、カリキュラム作成が鍵になる。

鈴木基史理事・副学長は、教養教育の一元化と新学部開設ができた記念すべき年と喜びを表された。

堀田正之副会長を総会議長に議事に入り、決算、予算を原案通り承認して総会を終えた。



懇親会では、中尾哲雄最高顧問の乾杯発声で開宴。中尾さんは大山さんを偲びつつ、マハチール氏や千玄室氏が九〇歳を超えて表舞台に立っていること述べ、意欲盛んなところを見せた。

三〇一〇、食べキリン、食べ物を大切にしようの運動として三〇分ほどは席を立たないで各卓で談笑してほしいとアナウンスして、その間壇上で先の市議選で当選した竹田勝氏が、話題の秋田犬のマサルに掛けて御礼の挨拶をした。

八月の越嶺会ゴルフの案内もあり、三日前の二六日にあった同窓会連合会ゴルフ大会で団体優勝したメンバーの木村昌幸氏(学部三一回)に優勝報告をしてもらった。



学部五回の福田明さん、宮崎甚一さん、十四回の四津井さんが、会報八四号に掲載の「タイ・チェ

ンマイに日本庭園を寄贈した澤井政夫さんの快挙について改めて皆さんにPRされた。

歓談半ば、宴たけなわの頃、例によって新卒の会員の首唱によって「ふるさと」を合唱した。日ごろ鍛えられているのか物怖じせず張りのある声で堂々自己紹介、自社のPRをしていた。



「ふるさと」四番五番は、作詞者の中尾さんの首唱で会場いっぱい唱和した。



話が弾んで、改めてお開きを宣言してようやく皆さん席を立って退席。閉会となった。なお、司会は重原佐千子さん(学部五四回)にお願いした。

出席者

福井 修・経済学部長
金 奉吉・経済学科長
新里泰孝・教授
鈴木基史・富山大学理事・副学長
遠藤俊郎・富山大学長
学部
一回 鍛治 功
五回 川並 三郎、島倉 敏夫、
福田 明、宮崎 甚一
七回 齊藤 洋子、塚田 隆
八回 中尾 哲雄

叙勲

おめでとうございます

寺林敏前越嶺会長は秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました

寄付金

左記の方々よりご寄付をいただきました。

記して御礼申し上げます。
二万円 山瀬 孝様(学部三四回)
五千元 岡本義悌様(学部七回)
一万円 匿名氏

十二回	小橋 啓一、七山 政廣
十三回	宮本 孝
十四回	水野 俊雄、四津井宏至
十六回	久郷 隆行
十七回	上埜 進、高田 幹夫
十八回	遠藤 敏之
十九回	竹田 勝
二十回	寺林 敏
二一回	釜谷 春雄、谷 和夫、 橋本 洋二、米原 俊孝
二二回	鳥居由美子
二六回	堀田 正之
二七回	吉野 哲哉
二八回	碓井 光一
二九回	清水 孝夫、鶴瀬 初弘、 柳原 満
三〇回	伊野 伸英、北川 善輝、

六五回	清水 雅文、宮村 和磨
六四回	手崎 光康
六三回	金沢 輝
六二回	岩井 彬穂
六一回	杉江 咲樹
五九回	園部 佑樹
五八回	福田 純子
五五回	川崎 理恵
五四回	重原佐千子
五三回	花岡 秀樹
四六回	加賀度雄司
四四回	水落 正廣
四三回	手崎 裕之、浜畑 早苗
四二回	東田 勇秀
四一回	金瀬 正志、森 直生
三九回	寺嶋 直美、長谷川正人
三〇回	赤川 浩一、扇谷由美、 泉 秀樹、松田 充生
三八回	竹田 達矢、清川 亨
三七回	大波加肇
三六回	島崎 厚人、深田 清就
三五回	新納 茂洋、川端 宏典
三二回	奥井 智保、木村 温子
三三回	工藤 治
三二回	石井 幸治、竹野 博和
三一回	舟崎 友晶、林 清慈
三〇回	木村 昌幸、境 博紀
二九回	山田 吉晴、寺西 裕行
二八回	伍嶋二美男、寺西 裕行

原稿募集

越嶺会報は、五月と十二月に発行しています。
三月末、十月末までにお送りいただければ夫々の号に掲載できます。
遅れましたら次号になることをご了解願います。

記

締切 三月末
十月末

字数(同期会等の場合)

千字程度+参加者名簿+写真

郵便、FAX、メールでお送りください。
速くて便利はメールですが、ご持参いただいても結構です。
留守のときもあり電話等ご一報いただければ有り難いです。

六六回 二村 恭輔、山本明日香
短大
二回 稲垣 喜夫
六回 大垣 輝夫
十三回 中田 勇
十六回 浦田 竹昭

越嶺会 決算表(平成29年 4 月 1 日～平成30年 3 月31日)

1.一般会計

単位：円

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額	備 考
前 年 度 繰 越 金	199,190	越 嶺 会 基 金 へ 繰 入	0	
入 会 金 ・ 終 身 会 費	5,130,000	事 務 費	267,912	
総 会 等 懇 親 会 費	637,000	通 信 費	2,022,011	会報82、83号発行
会 報 発 行 協 力 金	863,000	印 刷 費	1,216,080	会報82、83号発行
利 息 収 入	17,614	手 数 料	60,174	郵便振替
名 簿 代 収 入	195,000	旅 費	109,000	支部総会出席旅費
寄 付 金	40,000	総 会 費	572,740	2017.5.29総会
広 告 収 入	80,000	人 件 費	1,405,987	専任事務局員給与等
越 嶺 会 基 金 よ り	591,217	会 議 費	226,000	2018.1.29越嶺会新年会
		慶 弔 費	4,544	
		卒 業 祝 賀 会 経 費	1,261,332	H30.3.23 A N A ホ テ ル
		学 部 助 成 費	100,000	
		同窓会連合会分担金	84,800	5万＋28年度新入会員数×100円
		支 部 助 成 金	37,000	若手会員優待分補填
		名 簿 代 会 計 へ	195,000	
		予 備 費	95,040	前会長への退任記念品
		翌 年 度 繰 越	95,401	
合 計	7,753,021	合 計	7,753,021	

2.越嶺奨学基金会計

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額
前 年 度 繰 越 金	21,154	事 業 費	50,000
利 息 収 入	10,000	予 備 費	0
越嶺奨学基金より	100,000	翌 年 度 繰 越 金	81,154
合 計	131,154	合 計	131,154

事業費内訳 政治経済学国際セミナー助成金 5万円

3.基金

基 金 名	H29年4月1日	H30年3月31日
越 嶺 会 基 金	25,491,217	24,900,000
越嶺奨学基金	29,800,000	29,700,000
合 計	55,291,217	54,600,000

90周年記念会員名簿会計

基 金 名	H29年4月1日	H29年度回収	未回収
名簿代金未収金	250,000	175,000	80,000
広告料未収金	20,000	20,000	0

越嶺会 予算(平成30年 4 月 1 日～平成31年 3 月31日)

1.一般会計

単位：円

収 入 の 部	予算額	支 出 の 部	予算額	
前 年 度 繰 越 金	95,401	越 嶺 会 基 金 へ 繰 入	0	
入 会 金 ・ 終 身 会 費	6,000,000	事 務 費	300,000	
総 会 等 懇 親 会 費	700,000	通 信 費	2,100,000	会報84、85号発行
会 報 発 行 協 力 金	1,000,000	印 刷 費	1,250,000	会報84、85号発行
利 息 収 入	15,000	手 数 料	70,000	郵便振替
名 簿 代 収 入	80,000	旅 費	120,000	支部総会出席旅費
		総 会 費	600,000	2018.5.29総会
		人 件 費	1,450,000	専任事務局員給与等
		会 議 費	250,000	
		慶 弔 費	15,000	
		卒 業 祝 賀 会 経 費	1,300,000	H31.3 A N A ホ テ ル
		学 部 助 成 費	100,000	
		同窓会連合会分担金	84,200	5万＋29年度新入会員数×100円
		支 部 助 成 金	70,000	若手会員優待分補填
		名 簿 代 未 収 金 会 計 へ	80,000	
		予 備 費	101,201	
合 計	7,890,401	合 計	7,890,401	

2.越嶺奨学基金会計

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額
前 年 度 繰 越 金	81,154	事 業 費	150,000
利 息 収 入	10,000	予 備 費	41,154
越嶺奨学基金より	100,000		
合 計	191,154	合 計	191,154

3.基金

基 金 名	H30年3月31日	H30年4月1日
越 嶺 会 基 金	24,900,000	24,900,000
越嶺奨学基金	29,700,000	29,600,000
合 計	54,600,000	54,500,000

越嶺会グリーン会 第二八回ゴルフコンペ

二〇一八年八月二八日(日)

七時スタート

太閤山カントリークラブ(射水市)

晩夏の好天の下、三回生から五回生まで三〇名が、親睦を図りながらプレーを愉しました。

表彰式では、越嶺会グリーン会土屋会長(三四回)の挨拶に続き、越嶺会 堀田副会長(二六回)のご発声で乾杯しました。

優勝は、OUT 43、IN 40、グロス 83、NET 2.2 でプレーした山田勉さん(三四回)でした。二位は小野崇さん(二〇回)、三位は金瀬正志(四一回)で、ベストグロスは関井哲仁さん(二〇回)の八一でした。



来年二〇一九年は、富山大学経済学部が九五周年を迎える中、盛会にゴルフコンペを開催いたしましたと思いますので、お一人でも多



くの皆さまのご参加をお待ちしております。

参加者

学部

三回

四回

五回

七回

二〇回

二二回

二六回

二九回

三〇回

三四回

三五回

三六回

四〇回

四一回

四三回

五一回

五九回

短大

一七回

辻井

益雄

金瀬

正志

記

各支部だより

平成三〇年度関東越嶺会総会

九月八日(土) 正午よりアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて開催され、賑やかに旧交を温めました。

司会進行を飯塚修代表幹事(学部二五回)が務め、来賓紹介に続いて、まず福田会長(学部一八回)が開会の挨拶を述べました。来賓・会員への出席御礼と、年配から若手までゆつくりと参加してもらいたく昨年に続き土曜日の昼間開催にしたことなどについて話し、各親睦会も含めて更なる会の活性化を図りたいと強調されました。

続いて平成二九年度活動報告・収支報告・監査報告、平成三〇年度事業計画・収支計画を、飯塚代表幹事、草野圭司会計(学部二八回)、西垣栄一監事(学部二八回)がそれぞれ報告・提案して、承認されました。役員改選では、福田会長と監事の再選などが承認されました。

来賓挨拶では、福井修・経済学部長が、富山大学や経済学部の近況について話されました。ゼミ体制の改革、今春の学部卒業生の進路状況(関東地区は約二〇%)や

前期後期入学試験の状況などを説明されました。

越嶺会本部の堀田正之副会長(学部二六回)は、越嶺会の課題の一つとして、女性会員の参加をどう高めていけるか、など話をされました。

今回、情報提供としてミニ講演を初めて企画しました。講師は、元富山大学経済学部長の小倉利丸氏で、現在のネット社会の中、セキュリティとプライバシーをめぐって、今日の情報機器の発展による利便性と様々なリスク・課題について説明されました。

第二部の懇親会は、大松日出夫副会長(学部五回)の乾杯発声で開始されました。各テーブルに富山名産の鱒寿司や富山の銘酒が並べられ、先輩・同期・後輩の久々の歓談が始まり、すぐに会場は賑やかになりました。





次いで金岡隆・東京富山県人会連合会常務理事より来賓スピーチを頂戴しました。年間の連合会行事や郷土の力士・朝乃山の活躍などを紹介されました。

懇談の中、当会の親睦会である「五福会（ビジネス異業種交流会）」・「バーディー会（ゴルフ親睦会）」・「eワイン会（料理とお酒の親睦会）」・「eトモ会（若手会員親睦会）」・「関東観て歩く会（歴史に触れる散策の会）」の状況報告・活動計画が、各会長・世話人より紹介され、参加の呼びかけをしました。皆さん、気軽にご参加下さい。

アトラクションのビンゴ大会で

は、柿本浩和会計（学部三一回）が司会進行を行い、ワイワイガヤガヤと楽しく富山名産品を競い合いました。

懇親会も終盤に入り、林明宏副代表幹事（学部二八回）のリードで、校歌（高岡高等商業学校歌・富山大学歌）を斉唱、この校歌斉唱も恒例行事となっています。

最後に塚光男副会長（学部十一回）が閉会の挨拶、再会を期して盛会裏にお開きとなりました。

今回は、最長老の古澤英雄最高顧問（高商十二回）が所用でご欠席、熱い古澤節は次回のお楽しみとなりました。

当日の出席者は、次の通り。

福井 修・経済学部長

小倉 利丸・元学部長

堀田 正之・越嶺会副会長

金岡 隆・東京富山県人会連合会常務理事

平尾外志雄・仰岳会（工学部）関東支部長

中西 憲幸・薬窓会（薬学部）関東支部長

報道 北崎裕一・北日本新聞社東京支社

釜本 勝・富山県人社

学部 五回 澤井 政夫、大松日出夫、桑野 重英、玉川 治之、木村 昌治、中保 公英、浦嶋 稔

浦嶋 稔

六回 本村 正忠

七回 島田 雄達、長瀬 克之

八回 松井 脩

九回 宮前喜久次、重田 直彦

十回 石出 宗秀、清水 道夫、英雄

十一回 塚 光雄、藤田 英雄

十二回 飯田 捷政、日出国恒夫、政俊

十八回 福田 哲郎、濱松 政俊

十九回 鵜飼 甚作、山田 稔

二十回 今井 修一、新家 誠

二十一回 石黒 俊雄、山田 誠

二十二回 江藤 雅雄、室伏 渉

二十三回 永井 雅律、室伏 渉

二十四回 飯塚 修、村山 修

二六回 林 良永、宮下 佳藏

二八回 高須 康之、林 明宏

三一回 西垣 栄一、吉田 正克

四一回 草野 圭司、吉田 正克

四二回 柿本 浩和、大拙 義成

四七回 藤井 大拙、義成

五七回 米田 義成、神田 将司

短大四回 神田 将司、土屋民雄

飯塚修 記

関西支部 平成三〇年度支部総会

飯塚修 記

日時 平成三〇年六月三〇日（土）

正午～午後三時

場所 「がんこ梅田本店」

出席者総数 二三名（内来賓二名）

「語らいの総会」という趣旨で実施して四年目になり、今回も参加者全員が主役のアットホームな総会となりました。

二三名の出席者中、北部地震被災地からはそれぞれ、茨木三名、高槻二名、枚方一名でお互いの無事を喜びました。

冒頭で写真撮影。三宅支部長からの配布資料に基づき、支部役員への任命、会計報告があり、参加者の皆様より承認等を頂きました。

司会を、脇田（学部二九回）に代わり、黙禱の後、支部長の挨拶に続いて、福井学部長、山瀬越嶺会副会長（学部三四回）のご挨拶を頂きました。

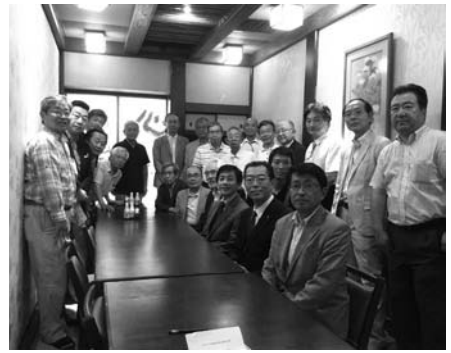
福井学部長のお話は、大学改革として大きく次の三点を上げられました。

一、少子化時代を迎えての定員の削減（七〇名）

二、教員と学生との距離を縮めるゼミナールの充実

三、実学レベルの向上のためのアドバンストプログラムの創設

また、大学院設立の検討、留学生の受け入れ拡大、売り手市場の中での好調な就職状況等の報告がありました。



続いて、経営コンサルタント会社を経営の山瀬副会長からは、富山県への国内旅行者が減少する中、台湾等からのインバウンド（訪日旅行）の受け入れを通じた富山県経済活性化のお話がありました。

この越嶺会参加者の中では若手の藤田さん(学部三四回)に「三〇一〇運動」の推奨と乾杯の発声を頂きました。(三〇一〇運動：宴会時の最初の三〇分と最後の一〇分はお料理を楽しむことで食べ残しを減らしましょうという運動)

推奨に従い、食事と懇談の三〇分の後、卒業年次の若い方(山田さん学部四五回)から順次スピーチをお願いしました。お一人お一人から、近況や富山時代の思い出、仕事や趣味の話なんでも披露頂き

和気藹々と、進行しました。

概要は下記のとおりです。

・会社や仕事の話、独立開業(司法書士、中小企業診断士、社労士等)、今回の北部地震に纏わる地震災害と不動産売買契約時のリスク、赴任先で富山地域の仕事を担当したこと、二〇一九年G20大阪開催から東京オリンピックに向けたイベントの紹介、子供(孫)の教育について、ブログ開設の紹介、故郷富山について(風の盆、北陸新幹線、富山マラソン他)、大学時代の思い出(テニスクラブ、家庭教師、映画研究会、ユースホステルクラブ、剣道部、下宿先の娘さんの思い出、サークルのぼろ部室について)、趣味(水墨画、読書、上場企業の株式の分析、夜間大学院で学んでいること)、健康(大動脈解離)、いろんな話題が次々と提供され、またそのことに對する質問やコメントが自由に発せられ、最後に今回の長老である山崎先輩(学部八回)に中締めを頂きました。

支部長から、来年の越嶺会も六月二十九日に此処「がんこ梅田本店」で実施する旨の案内があり、皆様には、さっそく予定に入れて頂きました。

今回感じたのは、現役世代が多忙の中、東京から駆けつけてくれ

たり、来年には仲間を連れてきたなどの表明が二、三あり、頼もしく思いました。情報交換や人脈を広げる場としての役割も改めて重要と感じました。

今年は昨年より四名増加となりました。皆様が気軽に自由にご参加頂ける雰囲気が大切で、語らいの場として盛り上がるよう、三宅支部長を中心として、会に關係する皆で力を結集して参画して行きたいと思っています。

新役員 平成三〇年六月三〇日

支部長

三宅 博 (二二回)

副支部長

脇田守男 (二九回) (新任)

幹事長

宮田 玲 (三七回) (新任)

常任会計

山田好孝 (四五回) (新任)

会計監事

松村雄治 (二二回) (新任)

田中 史 (二二回) (新任)

常任幹事

忠 吉春 (二六回) (新任)

藤田幸久 (三四回) (新任)

串田健夫 (三四回) (新任)

池田陽介 (三七回) (新任)

輪島士明 (三七回) (新任)

顧問 大平良一 (一〇回)

有沢正道 (一八回)

出席者

ご来賓

福井 修・経済学部長

山瀬 孝越嶺会副会長(三四回)

学部卒回 氏名(ゼミ) 住所

八 山崎 進(柴田大津市)

九 中田 一清(友杉茨木市)

十 大平 良一(池田大阪狭山市)

十三 谷垣 善博(花井茨木市)

十八 菅原 善穂(妙見川西市)

有沢 正道(妙見川西市)

村田 悟(妙見川西市)

富田大三郎(山崎奈良市)

横田 憲一(妙見川辺郡)

二二 椎原 秀雄(植村東大阪市)

松村 雄治(瀬岡高石市)

田中 史(瀬岡茨木市)

三宅 博(吉原神戸市)

二六 忠 吉春(新田大阪市)

二九 脇田 守男(増田豊中市)

三四 藤田 幸久(武蔵枚方市)

三七 池田 健夫(棚田高槻市)

宮田 陽介(古田高槻市)

輪島 玲(相澤大阪市)

山田 好孝(大坂佐藤神戸市)

脇田守男(学部二九回) 記

東海支部総会

日時 二〇一八年七月二一日(土)

十二時〇〇〜十五時〇〇

場所 東京第一ホテル錦11F

アンピオ(名古屋市中区)
出席 来賓三名、会員四三名

今年の越嶺会東海支部総会は、中村昌弘新支部長(学部二二回)体制下での初めての総会となり、記録的な猛暑の中、第一部を細江幹事(学部二六回)の司会で幕が開き、第二部司会を服部幹事(学部四五回)が引き継ぐ形で進みま

した。
今回は、新規参加者が十六名増えたこと、特別講演や最近の富山の風景などを写真や映像で紹介するコーナーなどの新企画もあり、二部構成となりました。

第一部は、支部長挨拶に続き、ご来賓の挨拶を頂き、記念講演を聴きました。また仰岳会東海支部様と葉窓会愛知県支部様から祝電も頂戴しました。

まずは経済学部長福井修様より、大学改革の取り組み状況について、定員削減、ゼミナールの拡充、アドバンスプログラムの充実化、大学院改革などのお話があり、卒業生の就職状況(就職率九八・四%)、在校生の状況(男女比六対四)をご紹介頂きました。また創立百周年に向けての決意表明も頂戴しました。

次いで、越嶺会本部副会長島居由美子様(学部二二回)、学部二



三回卒の帯原隆様からそれぞれ心温まるご挨拶を頂戴しました。
そして再度、支部長より支部の活動の幅や価値をより広げて活発化したいとの方針、新幹事の紹介、清 前支部長の顧問就任、の説明がありました。

続いて、杉浦吉治様(学部一四回 日本山岳写真協会会員、日本山岳会会員)の特別講演が始まりました。「登山と写真の世界へ、趣味は人生を豊かにする」と題して、杉浦様の登山経験を多彩な写真を織り交ぜご紹介頂きました。まさに「趣味は人生を豊かにする」そのもののご講演で、貴重なお話

を伺うことができました。

第二部は、参加者の中で最年長であられる学部七回卒小泉一之様の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。お酒が回ると並行して恒例の各自近況報告となり、年齢の若いテールから順に近況報告をしました。途中、「人の話をちゃんと聞きなさい!」と大先輩からお叱りが出るほど盛り上がりました。そんな中、尾関幹事(学部三四回)から、「最近の故郷 富山と大学」と題して、越嶺会本部の米原さん提供の写真に加えて、ご自身で富山まで足を運んで撮影された最近の富山の風景や大学構内の写真を披露して頂きました。市内中心部や構内の変貌ぶり、或いは昔と変わらない景色、など懐かしさや驚きを出席者各世代ごとに感じられたのではないのでしょうか。
参加者からゴルフコンペ開催提案や来年度は友人を誘って参加したいという意見も多くあったという間に三時間が過ぎ、最後は平松幹事(学部三一回)の音頭で校歌を全員で合唱、そして全員による記念撮影を以って今年度の東海支部総会は幕を閉じました。

最後に、**来年度の支部総会開催予定日は二〇一九年七月二十日(土)**とし、特別講演として学部一五回卒伊藤佑三様にお話し頂く予定であることを申し添えし

ます。一人でも多くの方に参加して頂けるよう(特に若い世代の方々)、支部長以下幹事一同取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

【新役員紹介】

顧問(新) 清 信裕 学部二三回
支部長 中村 昌弘 学部二二回
幹事 細江 克秀 学部二六回
川瀬 基裕 学部二七回

馬場 幸博 学部二七回
平松 秀康 学部三一回
置田 正浩 学部三二回
尾関 桂子 学部三四回
白石 憲生 学部三六回
服部 智政 学部四四回
倉地 博之 学部四七回

【出席者】 敬称略

来賓

福井 修・経済学部長

島居由美子・越嶺会副会長

帯原 隆(学部二二回・富山市会員(学部))

七回 小泉 一之、外山 利治

十回 佐橋 守、葉山 夏樹

十四回 熊谷 隆夫、杉浦 吉治

十五回 伊藤 佑三

十七回 磯井 幹彦

十八回 磯村 敏夫、高野 達夫、

二一回 杉坂 光一

二二回 磯部 義金、立松 信孝、

二二回 磯部 義金、立松 信孝、

二二回	金子	安彦、清	信裕
二五回	本多	康英、水谷	正秀
二六回	江端	正剛	
二七回	細江	克秀	
二九回	川瀬	基裕、馬場	幸博
三一回	長江	正竹	
三二回	高倉	靖詞、平松	秀康
三三回	伊藤	修、置田	正浩
三四回	高見	功	
三六回	尾関	桂子	中島 英登
四〇回	白石	憲生、中島	
四三回	奥田	和幸	
四四回	近藤	秀	
四七回	服部	智政	
四八回	倉地	博之、近澤	保
五八回	伊藤	正樹	
六一回	田口	寛道	
幹事	白石憲生(学部三六回)記		

二〇一八石川支部講演会・総会

日時：平成三〇年七月二七日(金)

一八時三〇分～二一時

場所：金沢ニューグランドホテル

出席者 四一名

石川支部では、越嶺会八十周年を機に以降毎年支部総会を開催し、今年は十四回目となりました。

冒頭、蘭守支部長よりご挨拶を

いただきました。

今年も中尾哲雄越嶺会最高顧問をお招きし、ご講演をいただきました。

政府が提唱している働き方改革について、中尾顧問ご自身におかれてはワークイコールライフであり、楽しい成長であったことや、ロータリークラブでは社会奉仕活動を大切にされており、現在(present)は過去からの贈り物で、今日を感謝しお礼として返すことをルーズベルト大統領夫人の言葉を交えお話しいただきました。続く総会では、橋本会長、福井経済学部長からご挨拶をいただきました。

学部長からは、都市デザイン学部新設のご紹介や、経済学部が行う三点の改革内容についてお話しいただきました。

その後、二〇期の太田博之副支部長に乾杯の挨拶をいただきました。挨拶の中で、来年から太田副支部長の後任に三一期の里見浩次郎氏のご推薦があり、満場一致で可決されました。

懇親会は大変和やかな雰囲気の中で行われ、皆さん時間の経つのも忘れ、昔話で大いに盛り上がりしました。

中締めは、森副支部長よりいただき、来年の参加者は今年より多



くなるよう決意をお示しいただきました。石川支部総会が今後益々盛会となりますよう、会員の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

出席者

来賓

中尾哲雄 越嶺会本部最高顧問
橋本洋二 越嶺会本部長
福井 修 経済学部長

会員

七回 中西 一順
十一回 藤田 長悦、宮崎 康恵
十二回 関 博剛

第十一回越嶺会石川支部
オープン親睦ゴルフコンペ

九月二十九日(土)

千羽平ゴルフクラブ

越嶺会本部最高顧問の中尾さん

十四回	岡田	一紀、岡田	茂
十七回	清水	和雄	
十九回	福田	幸進	
二〇回	一塚	勇、太田	博之
二二回	牧野	和広	
二三回	中山	良一	
二四回	蘭守	貴弘	
二六回	堀田	正之	
三〇回	北山	光宏	
三一回	里見浩次郎、神保	一郎	
三二回	森	浩一	
三三回	中本	秀史	
三七回	関戸	浩一	
三九回	堀	琢也	
四〇回	今井	信也、田村	創
四一回	南	和花、村本	満
四二回	安嶋	是晴、吉住美弥子	
四四回	西田	恵介、本田	泰郎
四五回	赤井	陽介	
五三回	池村	昌昭、石山	陽介
	高島	慎郁、濱頭	孝之
	山田	晋也	
六五回	門野	隆大	
院九回	福井	幸博	
事務局長	西田恵介(四一回)記		

がご夫妻で百六十歳になられたことを記念してのコンペでした。しかしながら奥様はお怪我でリハビリ中、また、天候に恵まれるはずのこの時期に、あいにくの台風接近で雨が降りしきり集合写真を撮ることはできませんでした。

そして、あろうことか優勝者に与えられる中尾賞の高額賞金を幹事自らがセメルこととなり、大変申し訳なく思い記念撮影もありません。

さてコンペの状況報告ですが、昨年と同じく六組二十一人の参加を得ました。会報のこれまでの記事を見て「面白そう。」と三四期の浅井さん、グリーン会での呼びかけに応じて二〇回の小野さんが初参加です。

お二人とも大変お上手な上に、翌日に富山での全国大学対抗を控えた越嶺会本部副会長の松原さんも参加されていたので、平均スコアがこれまで最高の一〇五まで上がりました。とはいえ、上下幅は相変わらずこの上もなく広いです。そもそもこのコンペの趣旨は支部総会懇親会の延長で始まったもので、スコアは度外視、ベスグロ賞もドラコンも設けない、親睦優先ですから、これでいいのです。

B Mの方には奮起を促すためボールIーダースを進呈し、底上げ

にも期待しております。

今回、幹事期するところあつて久しぶりに中尾さんと同伴させていただいたのですが、「ぎやふん」と言わせるスコアではないものの、初めてのゴールドティとダブルペリアに大はまり。少しは意地を見せられたのでは、と思っています。が、中尾さん、「まだ、まだ。」と一笑されるのでしょうか？

中尾さん恒例のご講評では、昨年のベスグロから辛うじての二桁台に落ちたこともあり、「これまで三桁は越嶺会の恥とまで言ってきたが、来年から言わない。」と弱気な発言も。でも、中尾さんあつてのこの会です。

最後に石川支部副支部長の中山良一さんより、「中尾さんも心変わりされたようで安心して参加できます。」と、来年も継続すると宣言され閉会となりました。

次回は来年九月二十八日(土)同じ千羽平ゴルフクラブにて中尾さんがご参加される条件で開催します。ぜひ皆様にもご参加のほどよろしく願います。

上位成績は次の通りです。

優勝 太田博之(二〇回)
ネット71・4 グロス 93
2位 松原隆光(五四回)
ネット71・6 グロス 86
3位 浅井清志(三四回)
ネット72・0 グロス 84

(ベスグロ)

参加者

中尾哲雄(八回)

宮崎康恵(十一回)

岡田 茂(十四回)

清水和雄(十七回)

早川賢治(十九回・文)

小野 崇、太田博之(二〇回)

牧野和広(二二回)

中山良一(二三回)

伊田知弘(二七回)

河原 靖、山本英博(二八回)

中本秀史(三三回)

浅井清志(三四回)

泉屋圭三(三九回)

中山 仁、本田泰郎、

西田恵介(四一回)

赤井陽介(四五回)

松原隆光(五四回)

福井幸博(院九回)

幹事：太田博之 記

第十九回越嶺会東北支部総会

東北支部では、総会を隔年に開催しており、今回は平成三〇年十月二一日(日)午後五時から秋田県乳頭温泉郷の「休暇村」にて開きました。

東北六県をエリアとする当支部総会には、開催地の秋田県からの出席者二名を含め支部会員九名と奥様一名の出席がありました。

参加者

酒井 義章 学部十回

と奥様(薬学部OG)

加藤 道雄 学部十回

高橋 邦文 学部十一回

博多 義雄 学部十三回

奥 清一 学部十九回

尾山 和之 学部二四回

岩見登志久 学部二七回

鈴木 政司 学部二九回

佐藤 徹 学部三三回



総会では奥支部長から「今回は、人気の高い乳頭温泉郷で開催することができました。ブナ林の素晴らしい紅葉と質の高い湯に浸ってゆったりと過ごしていただき、今後の支部運営の活性化について考えていきたいと思います。」との挨拶があり、続いて鈴木事務局長の司会

進行で「議長選出」「会計報告」「監査報告」に続き、東北支部役員七名再任の提案があり、全会一致で全員の再任が決定いたしました。

〔支部役員〕H三〇・十・二十一
越嶺会東北支部総会にて全員再任
支部長 奥 清一(学部一九回)
副支部長 加藤道雄(学部一〇回)
副支部長 尾山和之(学部二四回)
会計幹事 博多義雄(学部一三回)
事務局長 鈴木政司(学部二九回)
支部顧問 大川俊夫(学部 八回)
支部顧問 酒井義章(学部一〇回)

その後、酒井支部顧問の挨拶と乾杯で懇親会に入りました。参加者全員からの近況報告などがあり楽しく歓談することができました。

最後に加藤副支部長の中締めで、次回は、節目の第二十回総会となり、二〇二〇年度の開催となります。開催場所を「富山県」にすることを確認して、今回参加された皆さんとの再会は勿論、一人でも多くの東北支部会員の方々と本部役員の方が参加いただけることを期して閉会となりました。

鈴木政司 記

福井越嶺会

第十六回総会・懇親会報告

日時：平成三〇年十月二十七日(土)
会場：V E S T A

(元マクドナルド)

富山より松原隆光越嶺会副会長をお迎えし、若手事務局長・林智之氏の司会進行で始まりました。舟木幸雄支部会長の挨拶に続いて、松原副会長の来賓挨拶を賜りました。ご自身の数々の事業展開成功談をお話いただき、加えて今年十月から新展開の「回転寿司とらふぐ」をご紹介いただきました。個室&プライベート空間重視の店舗で、タッチパネルの簡単オーダー、銀座高級寿司店を目指したというカウンター席など、聞いているうちに想像が広がり、富山へのTRIPが大変楽しみになりました。松原副会長とのじゃんけん大会は「とらふぐお食事券」が景品で結果はちゃっかりと若手がさらっていきましました。ちなみに松原副会長の好きな芸能人をお訊きしたところ、間髪入れず奥様という返事が返ってきました!!
その他は、やはり永遠のモダンナ「吉永小百合」、世代がわかる!ほか薬師丸ひろ子、山口百恵、大原麗子、深田恭子と多種多様でした。



事務局から連絡・財務報告があり、参加者のいろいろな拡大手法・アイディアの説明や苦労話もあり、昨年参加者一七名からの今回二三名となり今後の参加者増が想像でき楽しみな展開です。女性も今回は三倍に増え!!(前回一人今回三人)今回参加の若手も役員として巻き込み、女性パワーとのコラボに期待し、若いパワーとアイディアと、熟練の諸先輩の人脈も活用し、老若男女勢揃いの、楽しく、為になり、参加したくなる越嶺会に成長する道筋が見えたようです。

重久修造役員の乾杯が始まった懇親会も、自己紹介や、恒例の越

嶺会〇×クイズと盛会の内に進み、越嶺会の交流ということでゴルフも話題になり、松原副会長から越嶺会本部主催のゴルフ大会のお誘いもあり、福井支部代表選抜会を来春開催する運びとなりました。お酒・ゴルフ好きのOBにも参加いただき、また、よりたくさんの方の交流機会を増やし、益々の福井支部の発展を祈願しつつ、平野恵次役員の中締め挨拶をもって、盛会裏にお開きとなりました。

出席者名(二十三名)

来賓 松原隆光・越嶺会副会長
一五回 重久 修造
二〇回 舟木 幸雄
二一回 白崎 章
二四回 小玉 俊一、木下 修
二八回 前川 克博
二九回 山田耕太郎、平野 恵次
三一回 大久保英康
三六回 津田貴一郎
四三回 岩崎 陽一
四四回 岸本 英樹
四五回 林 智之
四六回 中道 正康
四九回 高村 智子
五三回 前田 健輔
五四回 鈴木 駿平、坂下 佳弘
五八回 朝倉 佑介
六一回 佐々木志穂、大久保春香
六二回 吉田 涼
六五回 山本 龍角
津田貴一郎(三六回) 記

同期会だより

三嶺会 (昭和三〇年卒) 通信

「三嶺会夏の集い」は平成三〇年八月十三日(月)富山第一ホテル日本料理店松川で開かれた。平成二六(二〇一四)年に解散宣言をしてから四年経過し、〇〇君はどうしているか、××君は生きてるか等同期生の消息を尋ねる問い合わせが寄せられたのを機に「三嶺会夏の集い」と題して昼の同期会を開催することにした。六月末発信、七月に入って寄せられた返信の近況報告を整理していると、△△疾患で通院している



話や要介護? 級で施設に入っている友や、訪問看護を受けている友の苦しみ・悲しみを訴える便りが目についた。再会を楽しみにしていた友からは、奥様の筆で無くなったとの報告があった。

さて、八月十三日、開催の呼びかけをしていた頃には予想もしていなかった連日三五度を超える猛暑で些かバテ気味の状態。出席予定者の中で急に欠席が出ないか心配であったが、定刻正午にはほぼ全員の顔がそろった。

世話人代表の高坂君の挨拶に続いて順番に近況報告をしてもらった。全て報告したが、割愛していくつかを紹介する。

○岩城君 兼六園内の早朝ウォーキングを一時間十分位。なじみの顔も増え、会うたびに交わす挨拶や取り留めのない会話を楽しみにしている今日この頃。最近俳句教室に通い始め、苦しみにも似た楽しみを味わっているとのこと。

○中村 弘君 戦時中のことを思えば今は幸せだ。早朝ウォーキングで健康維持を図っている。アンチエイジングでなくエンジョイエイジングで老後を過ごしたい。

○中村敏夫君 身内兄弟からすると大腸がんの因子を持っている。新鮮・無農薬のものを取るようにしている。畑作を楽しみ、晴耕雨読

の日々を送っている。

○由田君 囲碁九段の資格を持ち囲碁教室の会長をしている。健康維持の基本は、動くこと歩くことにある。生き方によつては一〇〇才も夢ではない。一〇〇歳で同期会を開こう。

○吉原君 自宅で多くの資料を整理しながら往時をふり返っている。特に富大紛争の頃のものを手にする、先生方とともに過激派の学生に闘争を止めるよう呼びかけたところ、学生から投石され危なかったことが走馬灯のように浮かんでくる。

ひと通り近況報告が終わった後三時まで自由時間とする。夫々に親しい友と杯を交わし語り合った。午後三時、棚元君の挨拶で次回(二〇一九年秋・米寿記念)の再会を約し帰途についた。

数日してから岩城君から夏の集いに寄せて俳句が送られてきた。

久闊を 富山の味に 叙する秋
一献に たちまち和む 秋の宿
残暑なお 幸寿、

白寿を語り酌む
恙身の(つつがみの) 夢
口々(くちぐち)に 揚げ花火
ひぐらしに 再会約し 西東

文責 紺谷益三

「越嶺一四会名古屋」の集い

五月十日、爽やかな五月晴れの下、越嶺会東海支部有志ほか学部一四回生一〇名が、なごや観光ルートバス「メーグル」に乗り、トヨタ産業技術記念館とノリタケの森に集った。

この観光バス「メーグル」は、上記の他名古屋城や徳川園・徳川美術館など一〇か所の観光スポットをめぐるバスで、名古屋の名所を知るうえで有効な手段である。今回は、トヨタ産業技術記念館で豊田佐吉の自動織機から最新技



術の自動車までを見学した後、ノリタケの森へ移動しノリタケ高級食器でフランス料理を楽しみながら歓談した。食後はノリタケの歴史を知る博物館などを見学し解散した。

この会は、約一〇年前から名古屋地区在住の一四回生有志が毎年春と秋に集い懇親を深めている。ときには遠くから特別参加してくれる同期生もいる。幹事は持ち回りで、今までいろいろな趣向を凝らして実施してきた。いつまでも健康で集えることを願っている。今回の参加者

石田五十六(特別参加)、井上 博、上野 征洋、熊谷 隆夫、下平 邦弘、杉浦 吉治、杉山 鉦一郎、得永 丕、中山 武夫、福田 隆一
(杉浦吉治 記)

同期会短信

学部七回生

学部七回の関西(大阪、神戸、兵庫)では、七、八人が毎年会っておりま。全員とあえず元気です。

赤祖父清、菅田晋平、島一郎、鈴木英次、中村宗充、野口修、松本良太

「越嶺一四会」

第八回全国大会開催

一九六六年三月に卒業した第一四回生全員が満六〇歳を迎えた年から、隔年定期的に全国大会を開催しています。幹事は富山・北陸地区、中部・近畿地区、関東・信越地区の三地区持ち回り、一泊で開催してきました。



中部・近畿地区幹事の一昨年十月の第七回奥飛騨大会(熊谷隆夫代表幹事)の折、より多くの皆さんが参加し易いようにと、「原則として今後は学び舎があり思い出深い富山で昼間開催、隔年開催と三地区幹事制は継続」と決まりました。

新方式最初の今回は、全国から二二名が十月二十九日午後富山市の高志会館に参集し、全員からの地域ボランティア・健康法・趣味・ビジネス・思ひ出話などのスピーチを傾聴したあと、閉会まで賑やかな歓談の輪が広がりました。次回幹事は富山の渡辺勝海さん。

【参加者】二二名

石田五十六、井上博、岡島芳行、熊谷隆夫、杉浦吉治、杉本進、杉山鉦一郎、龍山義信、内藤克昭、中川寛、中土盛曠、福岡隆、藤岡正紀、藤村亘、堀江弘、本田保則、松井三郎、水野俊雄、守田力、四津井宏至、渡辺勝海、渡邊慶孝

渡邊慶孝(関東・信越) 記

十八期

越嶺Gの ふる里一泊紀行

平成三〇年六月一日夕刻、富山市の山間奥深い山田川清流のほ

とり開湯千三百年の越中山田温泉「玄猿楼・げんえんろう」に老猿五名が集い、貸切状態で湯に浸り、会食し、語り明かし、懇親会を楽しんだ。

メンバーは昭和四五年卒業、在学中に特別な接点があったわけではない。それぞれが関東、中部、関西などで就職し、転々と。学部創立九〇周年記念の頃から、趣を変えながら声を掛け合っている。

一名は奈良、四名は富山に生活を戻している富山に縁のある五名。共に心は、「ふる里に感謝と生涯勉強を貫き、知的好奇心を満たす熱い思い」や「地方創生に想いと自分生活の創生」を愉しんでいる。遠藤は毎年、数回海外にでかけ文化と生活を肌で感じ、また「住」に関する相談にのるなど現役時代並の動きを重ねている。

劔岳の麓・上市町が故郷の二口は銀行勤めの後、大阪府の留学生の世話、奈良市観光事業諮問委員会、会古都と古刹に世界から観光客誘致振興の提言活動をしてきた。

現在は絵画、俳句同好会で奈良や旅を題材に創作活動、ボーカリストもしている。

塚本は陶芸歴四〇余年。今日も工房で作陶に磨きをかけ焼き物を楽しんでいる。また、富山の観光名所になった富岩運河の船上ガイ

ドとして立山連峰まで視界に、魅力の富山PRに声をからしている。高原は民間から教育界に転じ、その後今年三月まで十年間『砺波市立砺波郷土資料館・分室砺波民具展示室』の館長として特に生活・生産の用具収集・変遷調査研究・価値の体系的整理に努めた。その集大成として平成二九年三月に六千九百点が『国重要有形民俗文化財』に指定される。退職後の現在も来訪者対応、講演にと忙しい。(本誌二頁「越嶺随想」を参照)

島田は砺波の散居村で、少子高齢化・人口減少が顕著な地域の活性化、社会教育を課題に公民館活動を手伝う。特に小学校の農業体験で郷里と五〇年の疎遠を埋めている。

この日は早朝、南砺市福光町へ。『志功旧住居・棟方志功記念館』『愛染苑』、『旧居・アトリエ』『鯉雨画斎』、『福光城址茶室』『栖霞園』(あいぜんえん、りうがさい、せいかえん)を保存会理事・越嶺会先輩の細木文夫さん(十四回)と学芸員さんの案内で見学。浄土真宗色濃い土地の庵のような居宅で気迫たぎる志功の魂が結ぶ錚々たる文人、歌人、音楽家、陶芸家、財界人との豪快な親交、系譜が生む独自版の自在さ・作品群に感銘。次に高原さんの待つ砺波へ。明

治の擬洋風建築『砺波市立砺波郷土資料館』の歴史的価値の説明を聞き、その和洋折衷技巧に見入る。豪壮アズマダチ農家レストラン大門(おおかど)にて、となみ野の伝承郷土料理を目と味覚で昼食。



次いで『砺波民具展示室』と『埋蔵文化財センター』を見学し古代の『利波臣の郷・正倉』を想像。そして広大な『県民公園頼成(らんじょう)の森』の中、長さ一一〇〇m、三一枚の田に六百品種七〇万株が植栽されている『花しょうぶ祭り』をゆつたりと鑑賞。

今宵の宿山田温泉への途中、遠藤の中学同期生が経営する九〇年の歴史あるぶどう園・ワイナリーに寄り、栽培とワイン醸造を勉強しボトル数本購入、二次会の座談



を滑らかにした。

泊り明けの一日、歌人二口は早朝から窓を開け静かな清流を見下ろし、緑深まる自然景詠みに没頭。朝餉の席で秀句の馳走に皆歓喜。

朝食後、五福キャンパスへ行き越嶺会事務局を表敬訪問し日頃のご高配に感謝を込めてご挨拶。その後、塚本の陶芸工房へ、焼きあがり彩色窯出し作品を手に見る。

旅の最後は、富山県美術館で、千住博の『高野山金剛峰寺障壁画完成記念展』を観賞した。渾身の力を込めてニューヨークで制作されたスケールの大きい世界観四四

面の日本画に圧倒される。富岩運河環水公園「ラ・シャンス」のランチで歓談して解散しました。(G・グランド爺さん) 島田重夫 記

第二回四九五〇の会

(関東地区の四五年入学・四六年入学の合同同窓会) 開催

昨年に引き続き、前期高齢者の部類に入った四五年入学・四六年入学者の第二回の合同同窓会が、六月九日(土)十七時から、東京の中心地である「東京駅」の南口に五年前に東京中央郵便局の再開発でオープンした「KITTE」ビル(目の前が丸の内側東京駅と中央駅広場の一等地を一望できる最高のロケーション)の中の京料理の老舗のお店「菜な丸の内店」で開催しました。

今回は、南ご夫婦を含め、初参加の方四名、計十一名が馳せ参じてくれました。特に、南ご夫婦へ質問が集中し、お二人の馴れ初め、そして現在お住いの相模原市の話題もあり、懇親の輪が更に拡がりました。

学生時代に富山の歓楽街・桜木町のキャバレーでアルバイトをやって、卒業年度時にはボーイ長まで昇りつめた「武勇伝」が飛び



出したり、卒業単位が一位足りずに苦勞した話があったかと思いきや、楽しい学園生活を四年で終わらせるのは逆にモッタイナイと意図して一年学園生活を楽しんだ話し、また卒業して就職先が東京勤めとなった時から、住むなら「横浜」と決めて奔走した苦勞話し等」。話題は尽きず、前期高齢者の各々が四〇年前の若き学生時代にタイムスリップした状態で宴は最高潮に達しました。

この楽しかった二回目の関東地区の四五年入学・四六年入学の合同同窓会は名残惜しみつつお開きとなりました。最後に、ライトアップされた東京駅をバックに記念撮影をして、それぞれ満足して帰途につきました。

来年も気軽に一人でも多くの関東地区の四五年入学・四六年入学の同窓生が参集してくれることを期待し、今回も幹事役で半年前からご準備いただいた谷内氏と平方氏には厚く謝辞を送り本筆を終えます。

今回の参加者

(敬称略、順不同)

四五年入学；

谷内 久夫

黒川 清孝

嶋田 政次

南 毅之・

順子夫妻

長谷川 修

竹澤 喜孝

四六年入学；

平方 睦男

橋本 邦雄

大熊 朝夫

嶋田 孝志

四五年入学

(二二回)

竹澤 記

地元富山での四五年入学 気軽なミニ同期会開催

前期高齢者の部類に入った四五年入学(学部二二回)ミニ同期会を富山在住者を集め鳥居さんー我々同期中で一番面倒見が良いーが連休前の四月二八日に企画してくれた。今回はミニ同期会ということで、三年前の宇奈月温泉での同期会に参加者に声をかけたとのこと。

富山市内在住は元より、高岡、氷見、魚津、射水からの参加者が多く、会場は、今や富山で一番賑やかさを呈している繁華街「富山駅前」ということになった。学生の頃は、西町、総曲輪、中央通り、社会人になると桜木町であった。富山在住飲み会は個人同士ではやってはいるものの、人数集めるのは、話としては出るが実現できなかった。

今回は、同期の梅本氏が地元の富山市議の政務活動費不正問題を鋭く切り込んだ著書『地方議員を問う 自治・地方再生を目指して』を出版されたのを機に、それを肴に大いに語ろうということになった。十一人の同期が集まった。地方議員は梅本氏の著書の中でも記してあるが、「代表」ではなく、あくまでも住民の「代理」に徹して議員活動をやるべしとの持



論から、各自のボランティア活動へと話が発展した(そのことに刺激を受けてから)。

富山弁での読み聞かせや朗読などのボランティア活動をやっている人、病院での院内案内奉仕活動、または、町の安心安全のための「じんだはん」(富山弁でおまわりさん・巡邏)になりたかったなど話題が錯綜しつつ、最後は思わず、学生時代の「合コン」での淡い恋心の本音の話(飲み会で気分悪くなつて、背中をさすってもらつてうれしかったこと)など、話が政治論から離れたが、大いに盛り上

ったミニ同期会であった。

このまま、二次会のカラオケか
スナックかと思いきや、なんと、
駅前の喫茶店です。まだ語り尽
くせない自分史を終電近くまで語
り合いました。(もう前期高齢者
です。二次会に行く強者はいませ
ん。)

ということ、久々の旧交を温
めることができました。忌憚のな
い会話から、同期の人生を垣間見
るにつれ、親密感が強くなってき
ます。いいものですね。年齢を重
ねたもの同士が感じとれるものな
のでしよう。

今回は隣の石川金沢、新潟まで
伸ばしての拡大ミニ同期会を開催
することを祈念して散会しました。
次回も今回以上の同期が元気に参
集してくれるのを期待しています。

今回の参加者(敬称略、順不同)
帯原隆、梅本清一、竹澤喜孝、
安田隆、千葉茂幸、晒谷和子、
大崎隆、久々湊純二、鳥居由美子、
窪田建司、山崎達郎

竹澤 記



富山大学経営短期大学部

八、九、十回生の集い

平成三〇年六月三〇日(土)
富山県民会館レストラン清風

五〇年ぶりの再会もあり、やつ
ぱり懐かしかった。盛り上がった。
和気藹々と親睦を深めた。

河原憲行さんらの「テンペラフ
レンズ展」が県民会館で開催と知
り、画家の阿部信吉さん(十回)が
療養中ときき、応援の意を込め集
まりたいと、和田さんと企画した。



高橋先生はお若い!昭和十五年
十二月生まれの喜寿・七七才。連
絡すると奈良から飛んでいきます
とのこと。会の終わりに娘さん
と女の子のお孫さん二人が顔を出
してくれ一段と華やいだ。
九月六日の北日本新聞「仲間と
集う」欄に掲載された。

出席者(短大) 十八名

高橋敏朗先生(奈良市)

八回 青山 稔、

則子、

九回 有沢 泰弘、江尻 一夫、

河原 憲行、佐渡 正義、

高木 節子、高橋 和子、

土井みつ枝、深田 美里、

森 洋子、浦田 清隆、

十回 中村 博志、

十四回 和田 昌三、

浦田清隆 記

全国大学OB親善ゴルフ大会

富山大学(越嶺会)チーム

ネット部：準優勝
グロス部：優勝

二〇一八年九月三〇日(日)呉
羽CC日本海・立山両コースで、
東京大学チームを含め十一大学十
二チーム四十六名で熱い戦いが展開
されました。

ネットの部

1位 早稲田大学 215・8

2位 富山大学 216・9

3位 千葉商科大学 220・1

4位 東京大学 222・9

5位 明治大学 224・1

因みに昨年はネット部で優勝。

ネット競技の部では、富山大学
「チーム越嶺会」は木村昌幸(学
部三一回)、松原隆光(学部五四
回)、寺松信宏(学部三二回)、
島山昌輝(学部三一回)のメンバ
ーです。

ネット個人の部では木村さんが
二位、寺松さんが三位、松原さん
が四位でした。

グロスの部

1位 富山大学 243

2位 明治大学 246

3位 早稲田大学 255

4位 東京大学 261

5位 千葉商科大学 262



前日の石川支部オープンゴルフ大会で、過去グロスの部では明治が幾度も優勝しているので今年度こそは優勝とお話しましたら、某御大から打倒明治！とハッパをかけられました。
有言実行、某御大のハッパが効きました(笑)



因みにベストグロスは東京大学の平野さん(七四)が二年連続です。
北日本放送主催、北日本新聞共催
松原隆光 記

同窓会連合会の行事

第十二回ゴルフ大会

二〇一八年五月二十六日(土)、太閤山カントリークラブで朝七時スタートで開催された。

参加者は越嶺会十三名、仰岳会九名、薬窓会八名、教育学窓会七名、大学から四名、理学部同窓会三名、計四十三名であった。

成績は別記のとおり。

表彰式・懇親会は、大会世話人代表・中尾先輩の開会の辞で始まり、寺林連合会会長が挨拶された。遠藤大学長の発声で乾杯して歓談した。



団体戦 優勝 越嶺会B
(右から、松原さん、木勢さん、木村さん)

今回は教育学窓会の幹事で開催されることとなった。

成績：

個人戦 優勝 桑原幹也(越嶺会)

二位 島崎修一(仰岳会)

三位 木村昌幸(越嶺会)

団体戦

優勝 越嶺会B

(木村昌幸、松原隆光、木勢博文)

二位 越嶺会C

(桑原幹也、大野公久、伊野伸英)

三位 学窓会A

平成三〇年度総会

二〇一八年七月十九日(木)

電気ビル(富山市桜町)

総会：一八時

昨年度事業報告や会計報告があり、連合会十周年記念事業での寄付金が、卒業生を中心とした皆様のご協力で五百万円ほどになり、四八〇万円を大学に寄付することを決議した。他に本年度事業報告や予算案が了承された。(決算書は24頁に掲載。)

講演会：一八時二五分

「医薬品を取り巻く環境の変化の事例とこれからのモノづくり戦略の方向性について」の演題で、前アステラス・ファーマテック(株)

代表取締役社長の清水隆司氏(理学部化学科卒)を講師に、医薬品開発を例にしてモノづくりに関する方法や注意すべき事柄を聴いた。

懇親会：一九時三〇分

総会で決議された寄付金が寺林同窓会連合会長から遠藤学長に手渡された。その際、介添え役を山



本明日香さん(今春卒業・第六六回)が務めた。遠藤学長は、受領



四〇回	高木	雅弘、	殿村	幸子
四三回	赤川	浩一、	浜畑	早苗
四八回	手崎	裕之、		
四九回	堀	健二		
六六回	沖	よし子		
短大	二村	恭輔、	山本	明日香
二回	稲垣	喜夫		
十六回	浦田	竹昭		
二四回	山崎	宗良		
院				
二〇回	荻布	彦		

单位：円

富山大学ホームカミングデー
 第十一回
 日時 平成三〇年九月三〇日(日)
 一三：〇〇～一六：〇〇
 会場 工学部
 台風二四号接近が遅れている
 (待ってくれている!)と判断して
 予定通り開催。同時開催の「夢大
 学」は親子連れの参加者が沢山い
 て賑やかな会場であった。
 小熊規泰工学部副学部長の司会
 で開会。遠藤俊郎富山大学長や會
 澤宣一工学部長が歓迎挨拶。

单位：円

収入の部	決算額	支出の部	決算額
寄付金収入	4,169,500	記念講演費	302,784
広告収入	3,000,000	会議費	33,592
		通信費	17,366
		事業費	
		趣意書印刷費	294,679
		記念品代	134,784
		記念誌印刷費	491,400
		会場看板費	83,160
		盆 栽	9,000
		音響照明費	33,480
		司会費用	45,540
		功労者表彰状	21,495
		封筒、差込費	30,957
		新聞広報	243,000
		事務費	19,132
		人件費	254,950
		大学へ寄付	4,800,000
		連合会会計へ	276,941
		振込手数料	77,240
	7,169,500		7,169,500



四班に分かれて施設見学に移った。旧工学部（高岡校舎）の門柱、シャンドリアを見て廻る。戦後の経済学部復活運動に思いがいたる。新学部創設にあたり改築した講義棟やロボコンに出場したロボットが並ぶ創造工学センターなどを見学。総合教育研究棟に入り、屋上の仰岳会寄贈のテラスで一服し周りを見渡す。曇り空で薬師・立山は見えなかった。

次いで、渡邊了都市デザイン学部長による「都市デザイン学部が目指すもの」との講演。都市か地域か命名で迷ったとか「富山は日本のスエーデン」と言われる土地柄なのに二〇代女性の転出が多いなどの話があった。



三時から懇談会を工学部食堂で開催。寺林敏・同窓会連合会会長、鈴木基史・理事・副学長の挨拶、坂井孝幸・仰岳会会長の乾杯発声で懇談に入った。各同窓会から活動報告などがあり、最後に玉生豊仰岳会副会長の中締め挨拶でお開きとした。

会員の訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
高商17回	加藤 一夫	平 29.12. 10	学部10回	小川 重夫	平 30.11. 16
高商19回	木村 頼光	平 29. 2. 26	学部12回	齊藤 雄一	平 30.10. 9
	高野 雅	平 27.11. 19	学部13回	田上 将夫	平 29. 5. 18
	野村 隆一	平 30. 6. 16	学部14回	荒木 保雄	平 30. 1. 28
学部 3 回	中田 隆雄	平 30. 7. 21	学部16回	谷内 千秋	平 30. 4. 7
	渡辺 有司	平 29. 6. 19	学部17回	酸漿 徳進	平 29. 7. 22
学部 4 回	武内 正弘	平 29. 6. 30	学部27回	牧野 英治	平 29.12. 3
学部 5 回	佐藤 與嗣	平 30. 2. 27	学部47回	砺波 善文	平 29. 9. 4
	川並 三郎	平 30.11. 5	学部53回	崎田 摩弓	平 29. 5. 2
学部 6 回	五十島信雄	平 30. 3. 18	短大 3 回	鍛冶 義明	平 30. 7. 30
	池田 勝哉	平 28. 3. 26	短大 6 回	沼田 達夫	平 29. 2. 20
学部 7 回	石川 喜敬	平 29. 4. 27	短大 9 回	土井みつ枝	平 29.
	江尻 和夫	平 30. 3. 13	短大10回	橋爪 民子	平 29. 5. 26
学部 9 回	笠井 隆	平 30. 1. 15			

事務局で住所がわからず会報をお届けしていない方々です。
手がかかりでも結構ですので、ご存知の方はお知らせ願います。（事務局）

美一子茂子晃宏み介朗郎育美大弥一学子希恵次也志智平子郎彦子介紀平子行子恵樹士幸光美仁睦美太平代樹子隆梨純幸高廣仁征充明章
信勇綯 麻^実 泰^ずい佳哲雄 宏 秀晃 紀味理勇和一英良由一昭優大真修香繁紀瑞幸卓直 里 留恵光幸真裕和真 宏英貴 良孝宏智
岩重野橋橋崎方本本野村下関沢藤瀬田端村下村本部 木田野米藤林村山藤下平井富野田田保馬岡川木木島橋森内中中林田田岡澤水江
大大大大岡緒岡岡奥奥尾尾貝加神河川北木木京国倉黒黒河國後小古小斉坂作櫻貞鹿島嶋新相高高高高高高竹竹田田辻土坪寺富戸中

富山大学基金便り

第12号 2018.10.1 発行

§ 富山大学基金の近況

平成29年9月末現在の寄附累計額は、1億4,290万399円となりました。
ご協力ありがとうございました。引き続き宜しくお願いします。

◎「富山大学基金」寄附受入状況（平成29年9月末現在）

区 分	件 数	金 額 (円)	備 考
役員・教職員	713	15,161,000	
元 教 職 員	121	8,023,390	
在 学 生	40	545,000	
同 窓 会	1,317	31,082,580	
保 護 者	96	1,185,000	
法 人 等	108	94,538,880	
一 般	15	23,295,000	
計	2,410	173,830,850	

富山大学基金の募集案内にあたり、富山大学同窓会連合会及び各学部同窓会のご協力とご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

§ 富山大学基金の活動

富山大学基金は平成24年4月に設置され、同年8月から募金活動を始めてから、この約6年間には学内の教職員はもとより、企業法人の皆様方、名誉教授の先生方、事務職員のOB・OGの皆様方並びに同窓会連合会のご協力の下、各学部の同窓会の皆様方のご理解とご協力によりまして、平成30年9月末現在の寄附件数は、2,410件、基金寄附総額は、約1億7,383万円となりました。皆様方からのあたたかいご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。皆様方からご寄附いただいた基金を有効に活用させていただき、本学の独自事業として富山大学基金の財源で平成26年度から平成29年度の間に、学生海外留学支援として19名の学生に対して支援を行い、学生の留学生生活をより充実したものにすることができました。今後、更に充実していきたいと考えております。

（富山大学基金学生海外留学支援プロジェクト奨学金受給学生からのメッセージ）



人文科学研究科 修士2年 高木直央
留学機関：ノヴォシビルスク国立大学（ロシア）
留学期間：平成29年8月～平成30年6月
派遣学生の声：

この度は、富山大学基金事業学生海外留学プログラムの奨学生としてご支援いただき、誠にありがとうございました。ロシアにおける日本文学の翻訳に関する研究と語学力の向上を目的とし、交換留学生として約10か月、ノヴォシビルスク国立大学人文科学院にて学ばせていただきました。

授業はロシア人学生の通常授業に参加する形で受けることとなり、留学生には難しいリアルなロシア語を聞き取って内容を理解する必要があったため、とても苦勞しました。しかし自習に励んだ結果、徐々に授業についていけるようになりました。研究に関しては指導教員の助言のもと、資料を読み込んだり分析をしたりして進め、授業の成績については先生方と相談し、個別の課題や試験問題を用意していただき、それを達成することで合格の評価を貰うことが出来ました。

順調と言うよりも予想外の出来事や困難が多かった留学でしたが、その分努力を重ね、充実したものになりました。今後もロシア語の勉強と研究を続け、富山とロシア、ひいては日本とロシア両国の関係発展に寄与したいと考えています。

◎ 基金事務室の場所は、「学生支援・地域連携交流プラザ」の2階にあります。

何かお問い合わせがある場合は、下記の富山大学基金事務室にご照会願います。

ご寄附いただいた皆様方で開示をご承諾いただいた皆様は、既にWebに掲載しております。誠にありがとうございます。

（お問い合わせ先）

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学基金事務室
Tel：076-445-6178、6179 Fax：076-445-6014
E-mail：kikin@adm.u-toyama.ac.jp

住所等変更通知のお願い

(FAX : 076-445-6419)

住所や姓名等に変更のあった方は、FAX でお知らせ下さい。(メール・葉書も可です)

		卒回	回	年	月卒
お名前		(旧姓)			
新住所 〒□□□-□□□□					
新電話 ()-()-() 新FAX ()-()-()					
差しつかえなければメールアドレス					
勤務先					
住所 〒□□□-□□□□					
電話 ()-()-() FAX ()-()-()					

越 嶺 会

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部内

TEL (076) 445-6411 (ダイヤルイン)

FAX (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

越嶺会ホームページ : <http://www3.u-toyama.ac.jp/etsurei>

e-mail etsurei@eco.u-toyama.ac.jp